

令和6年 第3回 臨時

摂津市教育委員会会議録

開催日時 令和6年8月7日（水） 午後1時00分開会
午後3時00分閉会

開催場所 摂津市役所 7階講堂

付議事件

議案番号	件名	審議結果
3 1	摂津市立小中学校における令和7年度使用学校教育法附則第9条 関係教科用図書、摂津市立小中学校における令和7年度使用教科 用図書採択の件	承認

教 委 员 員	育 員	長 員	若狭孝太郎 大矢優子 藤村裕爾 榎奈津子	教育総務部長 教育政策課長 教育総務部副理事 兼学校教育課長 教育支援課長 教育支援課長代理 教育支援課主査 教育政策課長代理 教育政策課係員	安田信吾 小西仁 河平浩一 武田進介 濱岡徹 安田昂平 藤原崇裕 末永侑希
---------	-----	-----	-------------------------------	---	--

教育長	<p>ただいまから、令和6年度第3回教育委員会臨時会を開催いたします。</p> <p>本日は福元教育長職務代理者が欠席です。</p> <p>本日の署名委員は榎委員です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>本日は付議事件が1件ございます。それでは、議案第31号「摂津市立小中学校における令和7年度使用学校教育法附則第9条関係教科用図書、摂津市立小中学校における令和7年度使用教科用図書採択の件」について、教育支援課から説明をお願いします。</p>
教育支援課長	<p>議案第31号「摂津市立小中学校における令和7年度使用学校教育法附則第9条関係教科用図書、摂津市立小中学校における令和7年度使用教科用図書採択の件」について、ご説明申し上げます。</p> <p>お配りいたしました資料1～4は、令和6年度に摂津市立小中学校で使用しております教科用図書の一覧及び令和7年度使用小中学校教科書目録登載一覧でございます。小中学校で使用される教科書については、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」により、文部科学省から送付される教科書目録に登載された中から、教育委員会において採択することとなっております。</p> <p>議案第31号のうち、まずは「摂津市立小中学校における令和7年度使用学校教育法附則第9条関係教科用図書」についてご説明申し上げます。</p> <p>学校教育法附則第9条関係教科用図書である「拡大教科書」「点字教科書」「一般図書」については、毎年申請があれば採択を行うこととしております。来年度、本市小中学校で使用する教科書の「拡大教科書」の使用について申し出がありましたので、まずは、「拡大教科書」の採択からご審議願います。ご審議の際は、お配りしております資料1～4をご参照願います。</p>
教育長	<p>説明が終わりました。</p> <p>ご意見・ご質問等はございますか。</p>
大矢委員	<p>昨年度は、小中学校それぞれにおいて「拡大教科書」を採択しました。今年度も申し出があったという事ですが、昨年度採択した教科書の使用について、何か問題は無かったでしょうか。</p>

教育支援課長

特に問題があったという話は聞いておりません。

教育長

「拡大教科書」の使用は全教科でしょうか。

教育支援課長

今回申請のあったものは、小学校 国語、書写、社会、地図、算数、理科、音楽、図画工作、保健、道徳の10種目ならびに中学校国語、数学、理科の3種目です。

教育長

他にご質問・ご意見等ございませんか。

それでは、議案第31号のうち、「摂津市立小中学校における令和7年度使用学校教育法附則第9条関係教科用図書」について、学校からの申し出のとおり「拡大教科書」については、対象児童生徒が必要とする種目の、令和7年度使用教科書として採択された発行者の教科用図書を拡大した「拡大教科書」を採択することとしたいたいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

異議なしとの事ですので、そのようにいたします。

それでは、引き続き教育支援課からお願ひします。

教育支援課長

続いて、議案第31号のうち、「摂津市立小学校における令和7年度使用教科用図書採択」について、ご説明申し上げます。

小学校における教科書は、今年度に採択替えを行ったため、摂津市立小学校における令和7年度使用教科用図書については、今年度と同様のものを採択することとなります。

令和7年度使用する教科書は、配付資料1の教科書を採択することでよろしいかご審議願います。

教育長

ただいま説明がありました小学校の令和7年度使用教科用図書については、今年度と同様のものを採択することでよろしいでしょうか。

全委員	異議なし。
教育長	<p>異議なしとの事ですので、そのようにいたします。</p> <p>それでは、議案第31号のうち、「摂津市立中学校における令和7年度使用教科用図書採択」について、審議いたします。</p> <p>審議に入るにあたり、私から本件に関する本日までの教育委員会としての活動の経緯を説明いたします。</p> <p>教育委員会は、令和6年3月29日付け文部科学省初等中等教育局長通知「教科書採択における公正確保の徹底等について」、ならびに同日付け文部科学省初等中等教育局教科書課長通知「令和7年度使用教科書の採択事務処理について」、及び令和6年4月17日付け大阪府教育委員会教育長通知「義務教育諸学校における令和7年度使用教科用図書の採択について」に基づき、採択の公正確保と静ひつな採択環境の確保に充分留意し、専門的な調査研究活動を行うため、「摂津市立小中学校教科用図書選定委員会」を組織いたしました。そして、同委員会に対して、「令和7年度使用摂津市立中学校教科用図書の選定に関する事項」について令和6年4月23日付けで諮詢を行いました。</p> <p>選定委員会では、諮詢を受け、中学校の全種目についての調査を行い、それに基づいて教科用図書選定に関する協議が重ねられました。そして、令和6年7月24日、教育委員会に対して答申が提出されました。</p> <p>答申には、発行者ごとの教科用図書の特徴、選定委員会として各者を比較した点とそれぞれの特徴、また、種目ごとの発行者数に応じて、1者又は複数者を採択候補とした順位付けが記載されておりました。</p> <p>答申を受け、教育委員会では、令和6年7月24日、29日、31日の3日間、教科用図書採択に関する学習会を行いました。本市の中学校で令和7年度使用する教科用図書の採択について、意見交換等を行ってまいりました。学習会にて参考とした資料は、各発行者について、選定委員会にて調査が行われた答申資料、中学校教員が調査員として調査研究を行った調査報告書、摂津市教育研究会からの意見書、教科書見本展示会において、市民の皆様等から寄せられたご意見、そして大阪府教育委員会により作成された「令和</p>

7年度使用 教科用図書選定資料 中学校用」でございます。

以上がこれまでの活動の経過です。

委員の皆さんから補足等はございますか。

ないようですので、「令和7年度使用中学校教科用図書」について、種目ごとに審議に入ります。

選定委員会の答申資料の内容については、私からご報告いたします。報告の後、改めてご審議いただき、採択について最終的に決定したいと存じます。

それではまず、国語の審議に入ります。

国語に関しては、「東京書籍」・「三省堂」・「教育出版」・「光村図書出版」の4者から見本本が届きました。

どの者も、言葉による見方・考え方を働きかせ、言語活動をとおして、国語で正確に理解し適切に表現するための資質・能力の育成を図るための工夫がなされていました。

選定委員会からは、「三省堂」「東京書籍」の順に、候補として推薦がありましたが、特に「三省堂」を強く推されていました。なお、「教育出版」・「光村図書出版」については、甲乙つけ難く明確な順位づけはされておりません。

「三省堂」は、「読む」ことの教材で学んだ内容が「書く」ことの教材につながるよう、読み書きが関連した内容に設定されているため、生徒が学びをつなげやすい構成となっていました。また、「思考の方法」が巻頭に示されており、生徒が必要に応じて思考の方法を確認したり、教材によって思考の方法を選んだりするための工夫がありました。

「東京書籍」は、デジタルコンテンツが充実しており、生徒の興味・関心を惹く内容となっていました。

以上が国語についての報告となります。

それでは、国語についての採択を行いますので、ご意見をお願いいたします。

藤村委員

冒頭ですので、今回、様々な教科書を見せていただいた感想を少し述べます。どの教科書も、今求められている主体的・対話的で深

い学びの観点等が充分踏まえられており、また、デジタルコンテンツも充実しているという感想を持ちました。

国語ですけれども、「三省堂」を推したいと考えております。各教材に掲載されている「学びの道しるべ」は、目標の確認から学びを振り返るまで5つのステップが示されており、見通しを持って学ぶことができると思います。生徒にとっては学びやすく、指導する教員にとっては指導しやすい教科書であるという点について評価をしたいと思います。以上です。

大矢委員

私も結論から言うと、「三省堂」が良いと思います。しかし、他の者の教科書も良かったので、まずは他者から申し上げます。

「東京書籍」ですけれども、1年生の古典で「浦島太郎」を取り扱っているのですが、子どもにとって馴染みがあり、古典に入りやすいのではないかと思いました。

「光村図書出版」も、説明文の文章が良く、特に1年生の竹取物語のストーリー解説、それも表現が非常に優れていると思いましたが、「学びへの扉」というところが少し難しいのではないかと思いました。

「三省堂」の良いところはレイアウトです。1年生の最初に、説明文の構成がどうなっているのかということを色分けしてあり、視覚優位の子どもたちにとっては分かりやすい文章構成が非常に良いと思いました。選定委員会も調査員も「三省堂」が良いと言っていましたように、私も良いと思います。

榎委員

私も結論から言いますと「三省堂」で良いと思います。説明的文章が多く良いと思いました。

「光村図書出版」の巻末資料の文法のまとめや、作品の紹介が印象に残りやすく、すごく良いなと思ったのですけれども、全体的に見て、やはり説明的文章が多く掲載されているので「三省堂」で良いと思いました。

教育長

私も皆さんと同じく「三省堂」が良いと思います。

選定委員会の答申にもございましたが、読み書きが関連している内容に設定されていると感じました。これは生徒にとって学びやすい構成になっていると思いました。また、委員の中の意見にも出て

きましたが、説明文教材の量、内容、これが非常に充実しているというところも「三省堂」を推す理由となりました。

それでは、「三省堂」が全員一致ですので、「三省堂」を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

異議なしという事ですので、国語は「三省堂」といたします。

それでは、書写に移ります。

書写については、「東京書籍」・「三省堂」・「教育出版」・「光村図書出版」の4者から見本本が届きました。

どの者も文字を正しく整えて速く書くことや、書写の能力を学習や生活に役立てるための態度を育むための工夫が見られました。

選定委員会からは、「光村図書出版」「東京書籍」の順に、候補として推薦がありましたが、特に「光村図書出版」を強く推されていました。なお、「三省堂」・「教育出版」については、甲乙つけ難く明確な順位づけはされていません。

「光村図書出版」は、別冊として「書写ブック」が付いており、これを活用することで十分な練習量を確保することができます。また、毛筆の指導において、筆圧や穂先の向きが視覚的に表されたり、筆を運ぶリズムも擬音語で表現されたりしているなど、生徒が筆使いを確かめながら練習をすることができるための工夫がなされていました。

「東京書籍」は、各学年に「書写テストに挑戦！」があり、チャレンジテストや入試対策として活用することができます。

以上が書写についての報告となります。

それでは、書写について採択を行いますので、委員の皆さんご意見をお願いいたします。

大矢委員

書写ですが、どの教科書も良かったと思います。去年の小学校の採択で、国語と書写の教科書は出版社を揃えたほうが良いという意見がありましたが、特に調査委員の方からそういう意見はなかったと聞きました。

「光村図書出版」には別冊がついているが、これを見たらやはりそこに書き込んで使いやすいと思うので、調査員も選定委員会も推

	しているとおり、私は「光村図書出版」が良いと思います。
教育長	学習会の中でもそういった意見が出ていました。選定委員会からは、国語と書写の教科書の出版社が一致していなくても、授業者は特に問題はないという事を確認しております。
榎委員	私も「光村図書出版」で良いと思います。別冊の内容もそうですが、やはり書く時に紙質が気になると思うのですね。別冊の紙質は、硬筆等で書く時に使いやすいと感じました。
藤村委員	私も「光村図書出版」の教科書を推薦したいと思います。 理由は3点あります。 すでに意見が出ていますが、別冊の書写ブックは、非常に使いやすく練習の機会が充実するのではと思ったこと、2次元コードから動画資料を見て練習できる内容が数多く取り入れられていること、そして、巻末の資料で学校生活や、日常生活に活用できるような例が多く取り入れられていること、以上から「光村図書出版」を推薦したいと思います。
教育長	私も委員のみなさんと同じく「光村図書出版」を推薦したいと思います。 ご意見の中にも出てきましたが、別冊の「書写ブック」で十分な練習量を確保することができると思います。書き込みやすい、良いテキストだと思いました。また、毛筆について、実際の教室の机の上に、硯箱、半紙等と一緒にお手本として教科書を置いて並べた時に、「光村図書出版」の教科書が一番置きやすいレイアウトになっていると思いました。子どもたちも実際に使いやすい教科書ではないかと思いました。 それでは書写については全員一致で「光村図書出版」が良いということですので、「光村図書出版」を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。
全委員	異議なし。
教育長	それでは、書写は「光村図書出版」とします。

次に、社会・地理的分野に移ります。

社会・地理的分野については、「東京書籍」・「教育出版」・「帝国書院」・「日本文教出版」の4者から見本本が届きました。

どの者も、社会的事象に関する地理的な見方・考え方を働きかせ、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連について多面的・多角的に考察し、課題解決に向かうための工夫がなされていました。

選定委員会からは、「帝国書院」・「日本文教出版」の順に、採択候補として推薦がありましたが、特に「帝国書院」を強く推されていました。なお、「東京書籍」・「教育出版」については、甲乙つけ難く明確な順位づけはされていません。

「帝国書院」は、「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」を実現するための工夫として、学習の見通しと振り返りがしやすい構造となっていました。また、「アクティブラーニング」では、他者との対話や意見交換をとおして、課題に粘り強く向き合う姿勢や合意形成をめざす態度を身に付けることができるよう工夫がありました。

「日本文教出版」は、「学習課題」について、示された「見方・考え方」を基に学習を進め、学習したことは、「確認」「表現」で確かにできる構成となっていました。

以上が社会・地理的分野についての報告となります。

それでは、社会・地理的分野についての採択を行います。ご意見をお願いいたします。

榎委員

結論としては、選定委員会と同じく「帝国書院」で良いと思います。要点がしっかりとまとまっており、子どもたちに分かりやすく内容が構成されていると思います。

「日本文教出版」も非常に良くできていると思ったのですけれども、子どもには少し情報量が多過ぎる気がしました。これでは要点を絞りにくいのではないかという印象がありましたので、「帝国書院」を推薦したいと思います。以上です。

藤村委員

私も「帝国書院」の教科書を推薦したいと思います。理由は2点あります。

特徴的なことが、防災、環境エネルギー、平和安全等、未来に向

けて 31 のテーマで他分野との関連するコラムが取り上げられており、分野横断的な学習が展開しやすくなっているという点です。もう一つは、「技能をみがく」として 21 テーマが取り上げられております。社会科、地理の教科の目標の 1 つに、効果的に調べる技能を身に付ける、ということがあるのでけれども、その点についても力点を置いた指導ができると思いました。以上から、「帝国書院」を推薦します。

大矢委員

私も結論から言いますと「帝国書院」が良いと思います。地理に関しては、どの者も内容的には遜色がないと思います。ただし、選定委員会と調査員の意見がその通りだと思うのに加え、「帝国書院」は地図を作っている者だけあり、写真も素晴らしいです。章の前に出ている写真は子どもたちの興味関心を惹くにはとても良いものだと思いました。ですので、私も「帝国書院」が良いと思います。

教育長

私もみなさんと同じです。「帝国書院」が良いと思いました。これは、選定委員会の答申にもございましたが、子どもたちが学習の見通しを持ちやすい、振り返りもしやすい、「主体的・対話的で深い学び」といった点も非常に工夫されていて、そういった構成になっている「帝国書院」が良いと思いました。また、単元を貫く問い合わせによって、毎時間の問い合わせが先生、子どもたちにとっても扱いやすく、分かりやすい内容になっていると思いました。

それでは、地理については全員一致で「帝国書院」を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

それでは、社会・地理的分野は、「帝国書院」とします。
次に、社会・歴史的分野に移ります。
社会・歴史的分野については、「東京書籍」・「教育出版」・「帝国書院」・「山川出版社」・「日本文教出版」・「自由社」・「育鵬社」・「学び舎」・「令和書籍」の 9 者から見本本が届きました。

どの者も、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働きさせ、よりよい社会の実現に向け、我が国と世界の歴史的事象を多面的・多角的に考察することや、深く理解するための工夫がなされていました。

選定委員会からは、「日本文教出版」・「教育出版」・「帝国書院」・「東京書籍」の順に、採択候補として推薦がありましたが、「日本文教出版」と「教育出版」は非常に僅差ということでした。また、他の5者については、甲乙つけ難く明確な順位付けはされていません。

「日本文教出版」は、導入ページで、前後の時代を比較したり、時代の推移を読み取ったりすることができる写真や資料が掲載されています。また、各单元の冒頭に「学習課題」が提示されており、それに続いてその課題を解決するための「見方・考え方」が示されている等、生徒が主体的・対話的で深い学びを実現することができるような工夫がなされています。そして、人権の諸課題に対して、人権尊重を基本理念として、多様性を尊重し認め合う共生社会の実現をめざす姿勢の大切さについて、子どもたちが自分事としてとらえられるような工夫もされています。さらに、ユニバーサルデザインフォントの使用はもちろん、ルビについても配慮されているとともに、単元ごとのカラー設定や教科書右側の時代スケール等、様々な箇所で学習上の配慮が意識されています。

「教育出版」は、学びを助ける三本の柱として、「LOOK!」「THINK!」「TRY!」が設定されています。また、各ページに載せられている歴史スケールは、強調される時代がわかりやすい配色になっている、キャラクターの吹き出しが読みやすい位置で改行されている等、学習上の配慮が様々に意識されています。さらに、各ページのタイトルが、その時代や单元の特徴を捉えやすい表現になっているため、生徒の関心を惹きつけることができると思います。

「帝国書院」の、「タイムトラベル」「世界とのつながりを考えよう」では、イラストで各時代のイメージを視覚的に捉えることができるような工夫がされています。また、「アクティブ歴史」では、他者との対話や意見交換をとおして、課題に粘り強く向き合う姿勢や合意形成を目指す態度を身に付けることができるような工夫があります。

「東京書籍」は、本文の学習内容を、より深めたり、より広げたり、異なる視点で捉えることのできる「もっと知りたい」というコラムがあります。

以上が社会・歴史的分野についての報告となります。

では、社会・歴史的分野についての採択を行います。ご意見をお

願いいたします。

榎委員

私は「日本文教出版」を推薦したいと思います。単元の初めに年表を見ながら、流れを確認して学習に入っていけるというのは、全体像が捉えやすく、前後関係も把握しやすくて良いのではないかと思います。以上です。

大矢委員

私も「日本文教出版」が良いと思います。しかしまずは、他の者も良いところがあったので申し上げたいと思います。

例えば「帝国書院」には、各章の初めに「タイムトラベル」があり、イラストでその当時の生活を表しているのですが、これは非常に歴史に対して興味を持ちやすくなるし、理解もしやすくなるという点で面白いと思いました。前回も教科書に載っていたのですけれども、前回の委員の皆さんも評価していました。

「東京書籍」ですが、単元ごとのサブタイトルが非常に面白いです。例えば、天皇が2人いる時代、「天皇が2人？まさかの争い」とか、「どこまで広がる？モンゴル帝国」とか、歴史的な意味や評価が端的に表されています。ただ単に事実を学んでいくのではなくて、その時に「ああ、そういうことだったんだ」という事が子どもたちに非常にわかりやすいと思いました。

その2者が面白かったのですが、「日本文教出版」、「教育出版」、「帝国書院」、「東京書籍」は内容が非常に拮抗して、どれもよくまとまっているし、使っている写真も良い。説明も良いし、課題も良いという事で、私としては非常に迷うところでした。

「山川出版社」も面白かったのですが、文章が難しいです。それがすんなり入ってくる子どももいれば、ちょっとハードルが高い子どももいるかと思います。

先に挙げた4者の中で、選定委員会の意見を聞きますと、やはり「日本文教出版」が良いのかと思いました。以上です。

藤村委員

私も「日本文教出版」の教科書を推薦したいと思います。「日本文教出版」、「教育出版」両者とも、学習を深めるために資料や写真、あるいはデジタルコンテンツが非常に充実していると思いましたが、特に、榎委員の方からも意見があったように、歴史を勉強する時には歴史の流れや繋がりということを、きちんと生徒たちに理解

させるということが一つのポイントかと思っています。そのような点から考えると非常に工夫されている教科書だと思いました。しかしながら、1点、「教育出版」で少し気になったところがありました。それは、特に近代史の章の冒頭、戦争に向かう日本の姿のところで、章の見出しの中に「満州は日本の生命線」あるいは「ぜいたくは敵だ」「欲しがりません勝つまでは」というタイトルが大きく記載されていました。そのような言葉は、その時代を象徴する一つの言い回しではあるけれども、歴史教科書としてはいかがなものかというところが気になったところです。以上です。

教育長

私も「日本文教出版」が良いと思います。これも選定委員会からの報告にもございましたけれど、各单元の冒頭の「学習課題提示」が良いです。それに続いてその課題を解決するための「見方・考え方」が示されているということは、本当に子どもたちが学びやすいかと思います。子どもたちが自ら「この角度で、この考え方で迫ればいいのだ」ということがわかるような工夫がされている点が良いと思いました。領土問題については、歴史、国際社会を学習する時には避けて通れないものだと思いますが、これについてもしっかりと歴史に向き合いながら解説していると思いました。

他の者も迷ったところがたくさんあります。「教育出版」の工夫で言えば、白黒写真にAIで色を付けてカラーにする事で、非常に興味が湧く写真に仕上がってきました。1枚や2枚ではなく、かなり多くのページを割いてそういう写真を資料として使用していました。

それから、「帝国書院」のアクティブ歴史ですが、今後子どもたちは他者と、学校で言えば仲間同士で意見交換をしていくわけですけれど、そういう中で合意形成を目指す態度を育成するようなねらいも見えました。そういうものは社会科だけではなくて、全ての教科において大切でしようけれど、そういう設定を教科書に取り入れているところが良いと思いました。

冒頭に申し上げましたが、その中で「日本文教出版」を推したいと思います。

それでは、社会・歴史的分野につきましては、全員一致で「日本文教出版」を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

それでは、社会・歴史的分野は「日本文教出版」とします。

次に、社会・公民的分野に移ります。

社会・公民的分野については、「東京書籍」・「教育出版」・「帝国書院」・「日本文教出版」・「自由社」・「育鵬社」の6者から見本本が届きました。

どの者も、現代社会の見方・考え方を働きかせ、国際社会に主体的に生き、平和で民主的な国家及び社会を形成する公民としての資質・能力の基礎を育成するための工夫がなされていました。

選定委員会からは、「帝国書院」・「教育出版」・「日本文教出版」・「東京書籍」の順に採択候補として推薦がありました。なお、「自由社」・「育鵬社」については、甲乙つけ難く明確な順位付けはされていません。

「帝国書院」は、各章の冒頭にある「学習の前に」で、イラストを基に学習内容を俯瞰してイメージすることができます。また、「未来に向けて」では、本文の学習内容を、「環境・エネルギー」「防災」「人権・多文化」「平和・安全」「情報・技術」「伝統・文化」の6つのテーマからさらに深められるようになっています。そして、生徒が「自分ごと」として実社会に興味を持ったり、社会に参画する意識を育んだりすることができるよう、資料やコラム等が工夫されています。さらに、他者に比べ本文にルビが多く、読解に課題を持つ生徒にとっても安心して読むことができるよう配慮されています。

「教育出版」の写真資料は、掲載数が多いうえに、入試で扱われるものも多くあるため、実用的な内容になっています。また、SDGsの17の目標の達成に向けて、「いま何ができるか」が大きな柱の一つとして据えられており、本時の各時間の学習内容と関連するSDGsの項目が紹介されたり、SDGs関連のページが設けられたりしています。

「日本文教出版」は、持続可能な社会の実現に向けて、巻頭ページで立てられた問い合わせに対し、その後の単元にて考察・構想を行う課題探求学習が設定されています。また、各単元の冒頭に「学習課題」が提示されており、それに続いてその課題を解決するための「見方・考え方」が示されている等、生徒が主体的・対話的で深い学び

を実現することができるような工夫がされています。

「東京書籍」は、生徒が主体的に社会参画するための準備として「18歳へのステップ」が設けられており、主権者意識・消費者意識の醸成を促す工夫がされています。

以上が、社会・公民的分野についての報告です。

それでは、社会・公民的分野について採択したいと思います。ご意見をお願いします。

大矢委員

私は選定委員会と一緒に「帝国書院」が良いと思います。しかしながら、他の者も良いところがあります。例えば「東京書籍」でしたら、「子どもの権利」についての項目があります。これは、他者にはありません。「子どもの権利条約」は「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」「日本文教出版」を見ますと、4者とも記載がございますが、例えば「教育出版」では、世界の子どもたちのところで扱われており、そのことで「子どもの権利条約」は、発展途上国の子どもたちにとってのみ、大切な条約だというような考え方で結びつく可能性があります。そういうつもりはないと思うのですが、そこはどうなのかと思いました。

しかし、「帝国書院」は何事にも少し踏み込んだ姿勢で書かれています。先程、教育長の話にもありましたように、生徒が自分事として実社会に興味を持ったり、社会に参画する意識を育んだりできるようになっているとありましたけれども、私もその通りだと思います。例えば、「基本的人権を守るためにには不断の努力が必要だ」と書かれてあつたり、差別を無くすためには、「ダイバーシティ」や「インクルージョン」という考え方が必要だとも書かれてあります。さらに、LGBTQの問題ですが、他者では渋谷区のパートナーシップ制度が取り上げられています。「帝国書院」でも、もちろんそれも取り上げられているのですが、そもそも日本の法律が問題ではないかと、そこまで踏み込んで書かれています。「教育出版」も良いと思いましたが、以上から、私は「帝国書院」の方がこれからの人子どもたちにとっては良いと思います。

藤村委員

私は「教育出版」の教科書を推薦したいと考えています。「教育出版」の教科書は、「人権尊重の観点」が貫かれています。また、今の子どもたちは、社会的な出来事になかなか関心を向けていないとい

う課題もあるかと思いますが、「教育出版」は、各单元の中で「私たちは何をすることができるのか」と問い合わせ、子どもたちが自分事として考えることを意識した教科書だと思いました。さらに、「公民の技」や「THINK!」「JUMP!」等、グループ学習が進められやすいような工夫がなされていると思います。以上です。

榎委員

私も「教育出版」を推薦したいと思います。問い合わせが多いという事と、需要と供給といった経済の仕組みについて等、子ども達が将来、社会人となって働く、社会に出て行くために学んでほしい内容がよく書かれている、わかりやすいというように感じました。

「帝国書院」もお金の事についてわかりやすいと思い、この2者で悩んだのですけれども、社会に出るという大前提を押して、「教育出版」を推薦したいと思います。

教育長

委員の意見が少し分かれていますが、私は子どもたちが政治・経済、国際社会を学ぶ公民的分野の教科書については、対立からいかに合意形成していくか、また、なぜ自分がそれを選んだのかという選択の理由、そういった主張をしっかりと仲間に説明していく、こうした視点やそういった活動をいかに取り入れていくか、こういった点が大事ではないかと思っております。

「帝国書院」については、「アクティブ公民 AL」がそういうしきけになっております。また、「学習の前に」と「学習の振り返り」がセットで構成されておりまして、子どもたちの「問い合わせ」を引き出す工夫があるところが大変良いと思いました。

その視点でいきますと「育鵬社」も合意形成を体験する為のアクティビティが非常に工夫されておりました。子どもたちの話し合いや深め合いの活動を本当に大切にしている教科書だと思います。しかしながら「育鵬社」につきましては、教科書見本本の展示会で市民の皆様等からいただいた意見にもご指摘がありましたように、今まさに「子どもを真ん中に据えた社会」というキーワードがありますが、子どもは決して大人の付属物ではないという観点から考えると、家族や子どもの捉え方に少し偏りがあるのではないかと思いました。したがって、私は活動・合意形成という観点では「帝国書院」が良いと思いました。

委員の中で意見が割れていますように、選定委員会で答申を作

成する際にも、調査員が1番に推してきた「教育出版」か、2番手に推してきた「帝国書院」か、で迷ったということを聞いております。様々な点を総合的に考えまして、答申にある、「教育出版」の「公民の技」「THINK!」「JUMP!」や、グループ学習が進めやすい工夫がされているといった点を重視し、社会・公民的分野は「教育出版」を採択したいと思いますが、いかがでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

全員一致ではございませんでしたが、異議なしとの事ですので、社会・公民的分野は「教育出版」とします。

続いて、地図に移ります。

地図については、「東京書籍」・「帝国書院」 2者から見本本が届きました。

2者とも、基本となる地図と関連した資料について、社会科の学習内容と関連付けながら活用できるよう工夫されていました。

選定委員会からは、「帝国書院」が採択候補として推薦されました。

「帝国書院」は、世界と日本の地域的特色が捉えられるよう工夫されていることに加え、歴史や公民にも活用しやすい内容の地図である。また、学習内容の習得や生徒の調べ学習を支援するデジタルコンテンツが多数用意され、生徒の「個別最適な学び」に活用できる内容になっています。さらに、目にやさしく、見やすい色遣いで表現される等、見やすさへの工夫も見られます。

以上が、地図についての報告です。

それでは、地図について採択いたします。ご意見をお願いいたします。

藤村委員

「帝国書院」の教科書を推薦いたします。理由は2点あります。1つは、「帝国書院」の地図では、特に日本の地域ごとに自然災害や防災の観点から資料が記載される点を評価いたしました。また、両者とも地図を読み解く問い合わせや、SDGsに関する内容等が記載されている点を評価したいと思いますが、デジタルコンテンツや資料の豊富さ等から、自主学習を進めやすい工夫がされているということで、「帝国書院」の地図を推薦します。以上です。

榎委員

私も「帝国書院」を推したいと思います。どちらの地図も遜色なく良いと思いましたが、総合的に見て「帝国書院」の方が見やすい印象がありました。世界の気候等は、グラフと合わせて見る事ができ、見やすいという印象が非常に強く残りましたので、「帝国書院」を推薦したいと思います。

大矢委員

私も結論から言いますと「帝国書院」です。先ほど榎委員がおっしゃったように、本当にどちらの者も楽しい地図で、地図の好きな子はずっと見入ってしまうだろうと思いました。両者を比較する点として、私は防災のページを見ました。「帝国書院」は地震だけではなく、「線状降水帯」がしっかりと載っています。摂津市は、やはり大雨や洪水が心配ですので、それが載っている教科書が良いと思いました。また、本当に些細な点ですけれど、例えば世界の生活文化で、「東京書籍」では世界各国の美味しそうなごちそうが載っているだけなのですが、「帝国書院」の方ではそれを取り囲んでいる人たちも載っている。文化ということを語る際には、人を載せた方が良いと思うので、やはり「帝国書院」が良いと思います。

教育長

私もみなさんと同じく「帝国書院」が良いと思います。
それでは全員一致で「帝国書院」を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

それでは、地図は「帝国書院」とします。
続いて、数学に移ります。
数学は、「東京書籍」・「大日本図書」・「学校図書」・「教育出版」・「新興出版社啓林館」・「数研出版」・「日本文教出版」の7者から見本本が届きました。

どの者も、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動をとおして、数学的に考える資質・能力を育成するための工夫がなされています。

選定委員会からは、「東京書籍」・「教育出版」の順に採択候補として推薦がありました。なお、他の5者については、「数研出版」が次点、「新興出版社啓林館」と「日本文教出版」が同列でその次、

続いて「学校図書」と「大日本図書」が同列として順位づけされています。

「東京書籍」は、練習問題について難易度が幅広く豊富であるうえに、必ず身につけてほしい内容の問題は「クイックチェック」として取り上げられているため、つまずきを早い段階で発見することができます。また、ほとんどのページに2次元コードがあり、それぞれの内容は問題のヒントや解答、途中式等の示し方が大変わかりやすく載せられているため、生徒の自学自習に活用することができます。

「教育出版」は、各章の始めに、既習内容を確認できる「学習する前に」が用意されており、章の終わりには「学習のまとめ」が掲載されているため、章全体をとおして既習と新しい学びとの結びつきを確認することができる構成となっています。

以上が、数学についての報告です。

それでは、数学について採択を行います。ご意見をお願いいたします。

藤村委員

結論としては「東京書籍」の教科書を推薦したいと思います。

今の報告にもありましたとおり、「東京書籍」も「教育出版」も既習事項との関連にかなり意識された構成になっているかと思います。数学においては、新たな問題は既習事項を活用しながら解く事ができるといった、数学の論理みたいなものが非常に重要だと思いますが、その点から考えると、「東京書籍」の教科書がより充実しており、指導の際も活用できるのではないだろうかと考えました。以上です。

大矢委員

私も「東京書籍」が良いと思います。どの者も、数学が苦手な子どもにとっても取り組みやすいように、柔らかなイメージのイラストを扱っているというのは、本当に工夫されていると思います。前回「学校図書」が採択された理由は、演習問題がとても良いということでしたが、今回は「東京書籍」の方が、問題が良いという事を、選定委員会も調査員もおっしゃっています。また、デジタルコンテンツについて、私も「東京書籍」のデジタルコンテンツを見てみたのですが、本当に面白いです。ゲーム感覚で取り組めるものや、途中式の過程や図が分かりやすいもの等、本当に良いと思いました。

さらに、各章の1ページ目は、やさしいイラストで身近な事がらを取り扱っているという事も良いと思います。以上から、私は「東京書籍」が良いと思います。

しかし、「教育出版」もとても面白いところがあって、数字に関する職業に就いている人の話を各者取り上げているのですが、「教育出版」は弁護士や、一見全く関係のなさそうな職業も、実は数学に関するという事で取り上げているところが面白かったです。以上です。

榎委員

私も「東京書籍」を推薦したいと思います。演習問題について、配列や数、難易度は「東京書籍」が最もバランスが良く、多くの生徒に対応できるのではないかという印象を持ちました。以上です。

教育長

私は、答申の内容やそれぞれの者についてのご意見について、なるほどその通りだと聞いておりました。「東京書籍」「教育出版」その他の教科書も大変良いと思っていたのですが、私の結論は、「数研出版」が良いと思っております。

1年生の平面図形のところで直線の説明があります。「これまでまっすぐな線の事を直線と呼んでいたが、これからは両方向に伸びたまっすぐな線を直線という」という記載があります。小学校2年生の直線の定義を持ち出しながら、数学として再定義しているところに、教科の連續性や発展性を意識した丁寧さを感じるわけです。「合同」「相似」これらも算数で出てきます。こうした、算数でも数学でも扱う内容についての定義、再定義において、より丁寧さが感じられたのが「数研出版」でした。ですので、私は「数研出版」が良いと思いました。

それでは、数学については全員一致ではありません。意見が分かれましたが、「東京書籍」が3名、「数研出版」が1名という事ですので「東京書籍」を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

では、数学は「東京書籍」とします。

続いて、理科に移ります。

理科は、「東京書籍」・「大日本図書」・「学校図書」・「教育出版」・

「新興出版社啓林館」の5者から見本本が届きました。

どの者も、科学的な見方・考え方を働かせ、自然の事物・事象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するための工夫がなされています。

選定委員会からは、「東京書籍」・「新興出版社啓林館」の順に採択候補として推薦がありました。なお、他の3者については、「学校図書」と「教育出版」が同列で次点、「大日本図書」がそれらの次として順位づけられています。

「東京書籍」は、生徒にとって学びやすい単元の並びであることに加え、ページ下部の「学びのフローチャート」は、学び全体の中で、今どの活動を行っているのか、一目で確認することができます。また、日常生活に関連された内容が豊富で、写真やイラストも大きく細部まで示されており、生徒が理解を深めやすい工夫があります。

「新興出版社啓林館」の各単元にある「探Q実験」や単元末の「みんなで探Qクラブ」は、重点的に探究の学習に取り組むことができる内容であり、科学的に探究する力を育むことができるような工夫がなされています。

以上が、理科についての報告です。

理科について採択を行います。ご意見をお願いいたします。

大矢委員

私は「東京書籍」が良いと思います。「東京書籍」も「啓林館」もどちらも良いと思うのですけれども、写真について、今回「東京書籍」は素晴らしいと思います。例えば、一年生の生物で脊椎動物の写真があります。それはもう、理論ではなくて写真を見たらわかるものになっています。また、写真の扱い方も良くて、例えば音を扱う内容でしたら、花火の写真が載せられており、「そういう写真の使い方もあるのだな」と思うような、とても工夫されたものでした。さらに、元素記号の周期表も良いと思いました。私たちも学生時代に覚えましたが、私の時は記号だけで覚えました。しかし今はその元素がどのような元素かという写真まで載っています。「東京書籍」の場合はどのような場面で使われているかという事まで載っているところが特に良かったです。そうすることで、理科という教科をより身近に感じられるのではと思いました。ただし、一年生の地震の単元ですが、阪神淡路大震災で倒壊した高速道路の写真が大

きく載っているところは、私は少し怖いと感じました。それ以外は、「東京書籍」が良いと思いました。

榎委員

私も「東京書籍」を推薦したいと思います。学習前後のワークシートや、単元終わりの振り返り等、自分の考えを自分でまとめるための工夫が特になされているという印象を受けましたので、「東京書籍」を推薦したいと思います。

藤村委員

私も「東京書籍」の教科書を推薦します。授業をしていくうえで、科学的な見方・考え方を反映させるために、様々な事象の中から問題を発見する。そして仮説を立てて、観察実験を構想して実際に観察実験する。その結果を考察する。振り返る。学んだことをどう活用するのかという探究の過程が、分かりやすく構成されていると思いましたので「東京書籍」を評価したいと思います。

教育長

結論を先に言いますと、私も皆さんと同じく「東京書籍」が良いと思います。答申にもあったように、「東京書籍」と「新興出版社啓林館」、それぞれ本当に良いところが、それぞれ違うところであると感じました。判断が難しいところもあったのですけれど、調査員それから選定委員会の順位、これを尊重したいと思いました。

特に「東京書籍」の良いところは、大矢委員もおっしゃっていましたけれど、元素記号の周期表で、その元素がどういう場面で使われているかというところが入っているというのは、覚えやすいと思います。単に記号として理解するのではなく、イメージしながら理解していくというアイデアは素晴らしいと思いました。

それでは全員一致で「東京書籍」を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

では、理科は「東京書籍」とします。

続いて、音楽一般に移ります。

音楽一般は、「教育出版」と「教育芸術社」の2者から見本本が届きました。

2者ともに、表現及び鑑賞の幅広い活動をとおして、音楽的な見

方・考え方を働きかせ、生活や社会の中の音や音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫がありました。

選定委員会からは、「教育芸術社」が採択候補として推薦されました。

「教育芸術社」は、2次元コードからアクセスできるデジタルコンテンツが充実しています。例えば合唱ではソプラノパートとアルトパートそれぞれのピアノ伴奏を聞くことができ、生徒がパート別の練習をしやすくなっています。また、「学びのコンパス」では、楽曲を学ぶ際のねらいが明示され、その達成に向けて、生徒が主体的に考え、話し合ったりしながら考えを整理し、より深い学びにつなげることができます。

以上が、音楽一般についての報告です。

では、音楽一般について採択いたします。ご意見をお願いいたします。

榎委員

私は「教育芸術社」を推薦したいと思います。「学びのコンパス」で、鑑賞や表現のポイントが示されているので、子どもたちがすごく学習しやすいように工夫されていると思います。以上です。

藤村委員

「教育芸術社」の教科書を推薦いたします。報告にもありましたように、写真やイラストが豊富に取り入れられており、視覚的に理解できるという工夫がなされていると思います。また、デジタルコンテンツも充実しているという点で、「教育芸術社」の教科書を推薦します。以上です。

大矢委員

私も「教育芸術社」が良いと思います。選定委員会や調査員の意見は、そのとおりだと思います。また、教科書の見やすさについて共通の題材で比較したところ、例えば「夏の思い出」では、「教育芸術社」は内容がシンプルで、歌詞が分かりやすく載っているのですが、「教育出版」は情報量が多く、そのために歌詞等が見にくくなってしまっている点が残念だと思います。さらに、両者とも冒頭に音楽関係者が載っているのですが、「教育芸術社」は、一見音楽に関係ないと思う人も、音楽につながるという事で、音楽と社会の結びつきを確認することができるという点も良かったと思います。以上です。

教育長

私も「教育芸術社」が良いと思います。

合唱パートの、それぞれのピアノ伴奏を別々に聞く事ができる点が良いと思います。摂津市では、市内のどの中学校も合唱コンクールを取り入れており、この取組みでは、生徒たちが自ら練習する姿勢が培われると聞きます。それぞれのパートを別々に聞くことできる工夫は、そうしたところにつながるのではないかと思います。

また、歌詞の背景に載せられている写真について、どちらの者も歌詞に合うきれいな写真が載せられているのですが、「教育出版」の方は少しインパクトが強過ぎるかなと思いました。写真としてはきれいなのですけれど、歌詞が少し読みにくいかなというところもありました。

それでは全員一致で、音楽一般は「教育芸術社」を採択することによろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

では、音楽一般は「教育芸術社」といたします。

続いて、音楽器楽に移ります。

音楽器楽は、「教育出版」・「教育芸術社」の2者から見本本が届きました。

2者ともに、器楽表現に関わる知識や技能を身に付け、生かしながら、器楽表現を創意工夫するための配慮がありました。

選定委員会からは「教育芸術社」が採択候補として推薦されました。

「教育芸術社」は、巻末のギターコード表等、掲載されている写真やイラストが大変わかりやすく、楽譜と文章のバランスもよく考えられています。また、「学びのねらい」をスタートとし、「学びのポイント」の展開を経て「まとめの曲」がゴールとして設定されており、見開きごとに学習を見通すことができます。

以上、音楽器楽の報告です。

音楽器楽について採択いたします。ご意見をお願いいたします。

大矢委員

私は「教育芸術社」が良いと思います。教科書の冒頭で、音楽をもっと楽しもうというメッセージが込められた「音楽って何だろ

う？」というページがあり、大変良いと思いました。「教育出版」ですが、楽器ごとに掲載されている写真に性別の偏りが見られる所が残念でした。以上から「教育芸術社」が良いと思います。

榎委員

私も「教育芸術社」が良いと思います。音楽を楽しむための工夫が教科書の中に多く見られた事と、教科書の内容を資料としても使えるのでは、というところが良いのではないかと思いました。

藤村委員

私も「教育芸術社」の教科書を推薦いたします。音楽一般でも申し上げましたけれども、説明文や写真、デジタルコンテンツが非常に充実しているということで、楽器の知識やあるいは奏法が理解しやすいように工夫されているという点で評価いたしました。以上です。

教育長

私も皆さんと同じく「教育芸術社」が良いと思いました。細かいところでは、琴と箏の違いについてイラスト付きで説明がございました。打楽器については、写真での紹介だけではなく、叩き方や「楽器の図鑑」があり、生徒の興味や関心を大きく惹くものではないかと思いました。

全員一致で音楽器楽は「教育芸術社」を採択することによろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

では、音楽器楽は「教育芸術社」といたします。
続いて、美術に移ります。
美術は、「開隆堂出版」・「光村図書出版」・「日本文教出版」の3者から見本本が届きました。

どの者も、表現及び鑑賞の幅広い活動をとおして、造形的な見方・考え方を働きさせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫がなされています。

選定委員会からは、「開隆堂出版」・「日本文教出版」・「光村図書出版」の順に採択候補として推薦されました。

「開隆堂出版」は、分冊の方法が、1年生と2・3年生の2冊となっています。2・3年生が1冊になったことで、題材が精選され

たことに加え、前学年の学びを確認しやすくなり、生徒にとっても先生方にとっても使いやすい教科書になっています。また、紙質は艶消しで、図版はコントラストや彩度が抑えられているため、目への負担が軽減され見やすい教科書でもあります。さらに、それぞれの活動で育てたい資質・能力が小見出しで示されており、学習の目標と照らし合わせながら確認することができます。

「日本文教出版」は、「作者の言葉」が載せられている題材があり、主題を生み出すための発想や構想の方法等が示されているため、美術に対する見方・考え方を深めることができます。また、デジタルコンテンツが充実しており、「個別最適な学び」、「協働的な学び」に活用できる内容となっています。

「光村図書出版」は、風神雷神図屏風やゲルニカ等、大判で迫力のある写真が掲載されています。

以上が、美術の報告です。

美術について採択いたします。ご意見をお願いいたします。

榎委員

どの者も良いと思ったのですが、私は「開隆堂出版」を推したいと思います。どの者も絵や写真は良いと思ったのですけれども、「光村図書出版」は資料やその説明の主張が強過ぎる気がしました。美術は自分で感じたこと、感性を育む教科であると思います。そういう意味で、「開隆堂出版」は余白の使い方が上手で、ページのレイアウトも良く見やすいので、頭が整理しやすかったり感受性が豊かになりましたという事につながると思いました。

藤村委員

私も「開隆堂出版」を推薦します。報告にもあったように、1年生と2・3年生の二冊構成であり、調査員の方々からはそれが使いやすいとの事でした。実際に使われる先生方が活用しやすいという点を取り上げたいと思っております。また、表現の活動と鑑賞の活動とともに、写真や作品の量が適度で情報量もバランスよく取り上げられているという点も評価いたします。以上です。

大矢委員

どの者も良いと思うのですけれども、私も「開隆堂出版」が良いと思います。どの教科書を見ても楽しいのですが、どれかを選ぶという事になれば、やはり選定委員会の意見を尊重したいと思います。「開隆堂出版」は写真の載せ方が大変良いと思います。すごく

特徴的で迫力があり、意欲をかき立てるものではないかと思います。例えば、現寸で載せられているモナリザです。モナリザはよく知られていますが、実はそんなに大きくないという事を知らない人もたくさんいると思いますので、子どもたちには良いのではないかと思いました。さらに、表紙も凸凹があり特徴的で面白いと思いました。したがって、「開隆堂出版」が良いと思います。

教育長

私も皆さんと同じで「開隆堂出版」が良いと思いました。今、大矢委員からもありましたが、表紙の手触りは油絵が描かれているかのように工夫されていて、生徒の興味関心を、教科書を触っただけで惹きつけるものがあるのではないかと思いました。それ以外でも、選定委員会の答申も全くそのとおりだと思いますので、「開隆堂出版」を推したいと思います。

全員一致で「開隆堂出版」ということですので、美術は「開隆堂出版」を採択したいと思いますが、いかがでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

では、美術は「開隆堂出版」といたします。

続いて、保健体育に移ります。

保健体育は、「東京書籍」・「大日本図書」・「大修館書店」・「学研」の4者から見本分が届きました。

どの者も体育や保健の見方・考え方を働きかせ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成するための工夫がなされています。

選定委員会からは、「大修館書店」・「学研」・「東京書籍」の順に採択候補として推薦がありましたが、特に「大修館書店」を強く推されました。

「大修館書店」は、各項目末及び章末に、それぞれの「学習のまとめ」「章のまとめ」が設けられており、生徒が知識の定着を図りつつ、学習したことを現在や将来の生活に生かすことができるよう工夫されています。また、生徒の理解を助けるための資料が豊富であり、緑色の囲みで示されているため大変見やすいレイアウトにもなっています。さらに、生徒の学びをサポートするデジタル教材が多数用意されており、「Web 保体情報館」は調べ学習に、「保体ク

イズにトライ！」は自学自習に活用することができます。

「学研」は、1時間の主な流れが「ウォームアップ」・「エクササイズ」・「学びを生かす」で構成されており、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するための工夫がされています。また、性の多様性については、偏ったイメージに捉われずに理解できるように資料が構成されています。

「東京書籍」は、SOGIE（ソジー）の考え方に基づいて性の構成要素が示され、性の多様性が表現されています。

以上が、保健体育の報告です。

保健体育について採択いたします。ご意見をお願いいたします。

榎委員

「大修館書店」が良いと思います。子どもたちが保健体育の授業で得た知識等を実生活に生かすことはとても大事だと思います。「大修館書店」は章のまとめがとても丁寧に書かれており、子どもたちの理解を助ける教科書となっていますので、私は「大修館書店」を推薦したいと思います。

大矢委員

私も「大修館書店」が良いと思います。他の者も良いと思いましたが、LGBTQについて特に詳しく書かれているのは「大修館書店」でした。やはり子どもの中には、性の悩みでどうしたらいいのだろうと困っている人もいます。そういう子もたちにとって、私は保健体育の教科書が助けになるのではないかと思っています。「大修館書店」の教科書には「体の性」、「心の性」、「好きになる性」、「表現する性」等、色々あると説明するだけではなくて、例えば打ち明けられた時にどのように対応したら良いか、あるいはアウティングしてはいけないとか、そういうことも丁寧に書かれているので、大変良いと思います。他には、先ほどの報告にもあったように、デジタルコンテンツが良いと思いました。保健のクイズはとてもシンプルですが、わかりやすく面白いと思いました。他にも、レイアウトもとてもわかりやすくて面白いと思いました。他にも、レイアウトもとてもわかりやすくてスッキリしていて見やすいものだと思いますので、私は「大修館書店」を推します。

藤村委員

私も「大修館書店」の教科書を推薦します。理由は2点あります。

まず、教科書の構成が、これまでの経験や学習をもとにして「つかむ」、「学習課題を確認する」、そして「身につける・考える」「ま

とめる・振り返る」と、自分の事として課題解決する学習過程が構成されており、指導の流れも明確に構成されている事に加え、各章のまとめも丁寧で充実しているということを評価いたします。

もう一点は人権尊重の観点から、性の多様性、いじめや人間関係の悩み等が適切に取り上げられている点で評価したいと思います。

教育長

私もみなさんと同じで「大修館書店」が良いと思います。

本文と資料の境目が明確であるように、レイアウトが工夫されており非常に見やすい教科書になっているのではないかと感じます。ただ1点、性の多様性についての意見が委員からも出ましたし、調査員からの報告書でも上がってきていますが、「大修館書店」は、気になる対象が「異性」という言葉に限定されています。しかし、「東京書籍」は「異性など他の人」といったLGBTQや多様性について非常に配慮した言い回しになっております。この部分に関しては「東京書籍」を評価しますが、トータルとして「大修館書店」が良いと思いました。

全員一致で保健体育は「大修館書店」を採択したいと思いますが、いかがでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

では、保健体育は「大修館書店」とします。

続いて技術に移ります。

技術は、「東京書籍」・「教育図書」・「開隆堂出版」の3者から見本本が届きました。

どの者も、技術の見方・考え方を働きかせ、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成のための工夫があります。

選定委員会からは、「東京書籍」・「開隆堂出版」・「教育図書」の順に採択候補として推薦がありました。

「東京書籍」は、「技術分野のガイド」において、学びの見通しを持つことはもちろん、「技術のめがね」「最適化の窓」から技術製品等を見つめて検討することで、「技術の見方・考え方」に気づかせる工夫が見られます。また、「TECH Lab!」では、豊富な写真や図で、技能の理解と習得を得ることとともに、問題解決

に取り組む際に活用することができます。さらに、身の回りから社会の諸問題まで、多面的・多角的な視点から考えを深めることができますように、様々なテーマの問題解決例が取り上げられており、生徒の興味・関心を引き出す題材設定になっています。

「開隆堂出版」は、「ガイダンス」において、技術分野の学びの見通しや技術の役割、技術の見方・考え方や安全面について、大変丁寧に紹介されています。また、技術の見方・考え方を働かせるとのできるワークシートが用意されており、教科書に直接書き込めることはもちろん、2次元コードでダウンロードして使うこともできます。

「教育図書」は、別冊の「スキルアシスト」で、製作等に必要な基礎技能や安全面への配慮について丁寧に解説されています。

以上が、技術の報告です。

技術について採択いたします。ご意見をお願いいたします。

大矢委員

私は「東京書籍」が良いと思います。以前は「この者の教科書にはこれが載っているけれど、こちらの者には載っていない」だったり、「この者はICTをとても詳しく取り上げているがこちらの者はそうでもない」といった視点で採択をしていたのですが、今回はどの者もバランスよく教科書が作られていると思いました。その中で、最もバランスが良いと感じるのはやはり「東京書籍」です。

「東京書籍」は、情報セキュリティについて丁寧に扱われています。昨今、サイバー攻撃やフィッシング詐欺等が問題になっていますが、子どもたちにはそういったところの危機管理を意識してほしいと思います。その部分については「東京書籍」が特に良いと思いますので「東京書籍」を推薦したいと思います。

藤村委員

「東京書籍」の教科書を推薦いたします。理由は2点あります。写真や挿絵、表や図、資料等に合わせてデジタルコンテンツが非常に充実しているので、生徒の理解を深めるだけでなく、自学自習や個別学習の手助けになると思いました。もう一点は、3年間技術を学んできたまとめとして、総合的な問題解決があり、現代的な課題をこれまで学習した4つの技術を全て結び付けて考察しようとしている点を評価いたします。以上です。

榎委員

私も「東京書籍」を推薦したいと思います。

「開隆堂出版」は、ネットワークの構成についての内容がすごくわかりやすく、イメージしやすいと思いました。しかしながら、やはり情報セキュリティに関する内容が特に大切だと考えており、その内容が充実しているのは「東京書籍」でした。

「開隆堂出版」か「東京書籍」か、で悩んだのですが、調査員の方々も推されており、実際に教科書を使って指導する先生方が良いと思われる教科書が良いと思いますので、「東京書籍」を推薦いたします。

教育長

私もみなさんと同じで「東京書籍」が良いと思います。

技術という中学校で始まる新しい教科を学ぶにあたって、「こんなことを学ぶのだよ」というガイダンスは各者とも用意しているのですが、特に「東京書籍」のガイダンスは技術の学び、教科の学びの本質的な部分にかなりのページを割いて、非常にわかりやすく展開している。そうしたところが非常に良いと思いました。

全員一致で技術は「東京書籍」ということですので、技術は「東京書籍」を採択したいと思いますが、いかがでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

では、技術は「東京書籍」とします。

続いて、家庭に移ります。

家庭は、「東京書籍」・「教育図書」・「開隆堂出版」の3者から見本本が届きました。

どの者も、生活の営みに係る見方・考え方を働きかせ、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育むための配慮があります。

選定委員会からは、「東京書籍」・「開隆堂出版」の順に採択候補として推薦がありました。

「東京書籍」は、領域の配列は「食生活」に係る内容から始まり、「幼児の生活」に係る内容が後半にきてるので、摂津市の子どもたちの実態に合った配列となっており指導がしやすいと考えます。また、多彩な調理実習例が掲載されているうえ、手順例やアレルギー表示もわかりやすく、安心して実習に臨むことができます。

「開隆堂出版」は、生活と命を守るための「防災」について、災害に備えたり、家庭内事故を防いだりするために必要なことが丁寧に掲載されています。

以上が、家庭の報告です。

家庭について採択いたします。ご意見をお願いいたします。

藤村委員

私は「東京書籍」の教科書を推薦いたします。報告にもありましたように、単元が他者の教科書と違って食生活から入り、そして最後に家庭生活、自立、地域が配列されています。必要な時期に必要な内容が配列されており、良いと思いました。特に食育という点を非常に重視していると思います。もう一つは、男女の協力が各所に掲載されている点で評価をしたいと思います。以上です。

榎委員

私も「東京書籍」を推したいと思います。調理実習について、それぞれ手順がわかりやすく掲載されており、生徒もやってみようという気になるのではないかと思いましたので「東京書籍」を推したいと思います。

大矢委員

私も「東京書籍」が良いと思います。どの者も本当に良かったと思います。以前は「この者にはこれが載っているけれど、こっちの者には載っていない。」という事がありましたが、それがほとんどなくなつて、どの者も差異がなくなっています。また、私は子どもの虐待防止が気になります。子どもの発育がどのようなものなのか、どのように幼児に関わったら良いのかということについて、どの者が詳しいのかと思ったのですが、どの者も差がなく丁寧に取り扱われていると思いました。子どもの権利条約についても、どの者も取り扱いがありました。

ファイナンシャル教育について、「教育図書」はファイナンシャル教育、特にクレジットカードについての内容が詳しいと思いましたが、食の領域で郷土料理の写真が少しづしかったり、家族の多様性の捉えが少し物足りなかつたりと感じました。

その点「東京書籍」は、先ほど榎委員がおっしゃったように調理実習の内容がわかりやすいということと、主菜副菜それぞれの手順がわかりやすいということも良かったと思いますので「東京書籍」を推薦したいと思います。

教育長

私も「東京書籍」が良いと思います。

「開隆堂出版」「教育図書」については、学習指導要領と同じ配列であります、「東京書籍」については、食生活を1年生に持つてきております。生徒の実態を考えて、あえて順番を入れ替えているところに工夫が感じられます。

調査員も選定委員会もその工夫が、本市の子どもたちに合っていると捉えておりませんので、私も「東京書籍」が良いと思っております。

それでは全員一致で「東京書籍」ということですので、家庭は「東京書籍」を採択したいと思いますが、いかがでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

では、家庭は「東京書籍」とします。

続いて、英語に移ります。

英語は、「東京書籍」・「開隆堂出版」・「三省堂」・「教育出版」・「光村図書出版」・「新興出版社啓林館」の6者から見本本が届きました。

どの者も外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働きかせ、外国語による言語活動をとおしてコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫があります。

選定委員会からは、「光村図書出版」・「新興出版社啓林館」・「三省堂」の順に採択候補として推薦がありましたが、特に「光村図書出版」を強く推されていました。なお、他の3者については、甲乙つけ難く明確な順位づけはされていません。

「光村図書出版」は、ほとんどのレッスンで4技能5領域を学ぶことができる構成になっており、「英語にくり返し触れ、英語をくり返し活用する」ことができる内容構成になっています。また、各Unit のオープニングページは、ストーリーの話題を予想し、大まかな内容をつかめるような工夫がされており、加えて、ストーリーは学校生活についての題材が多く、生徒にとって身近で興味・関心を高めることができます。さらに、巻末の「英語の学び方ガイド」は、様々な「学び方」が載せられており、生徒の自学自習に活用できる内容となっています。

「新興出版社啓林館」は、ほとんどのレッスンにおいて、本文や

知識・技能を習得するための問題の配置が同じになっており、生徒が内容を理解しやすいように工夫された構成になっています。また、取り扱われている本文や文法学習の内容は、易しいものと難しいものがバランスよく取り入れられており、学習が進めやすいと考えられます。

「三省堂」の巻末に付録されている資料は、表現や文法説明が豊富に載せられており、生徒が自学自習をする際に、十分に活用できる内容になっています。

以上が、英語の報告です。

英語について採択いたします。ご意見をお願いいたします。

榎委員

私は「光村図書出版」を推薦したいと思います。

登場人物の会話を中心に構成されているという事と、キャラクターが小学校からの引き継ぎになっており、子どもたちが教科書の内容に入り込みやすいのではないかと思います。また、身近な場面から学習が進められるように配列されているのではないかと思いますので「光村図書出版」を推薦したいと思います。

大矢委員

私も「光村図書出版」が良いと思います。前回の採択から「光村図書出版」を使い始めました。大きく教科書が変わったので、私としては不安でした。会話が中心であったり、留学生が自分の教室に来て、その子たちをめぐってのストーリーが展開されたり、生徒たちにとって身近ではありますが、それが良いのかどうかと悩んだことを覚えております。しかし、現場の先生方が今回も「光村図書出版」を強く推しているという事は、やはり「光村図書出版」が摂津市の子どもたちにとって使いやすい教科書だったという事なのだと思いました。

今回の「光村図書出版」も実生活に即したエピソードが多いです。1年生の教科書の途中で、留学生のティナが疲れて寝込んでしまったというストーリーがあります。普通、教科書でそのような話を取り扱うことは無いと思います。今の子どもたちに対して、「頑張り過ぎて疲れるという事もあるのだよ。そういう時もあるから、そういう時は休んだらいいのだよ。」という事もメッセージとして伝わるのではないかと思いました。加えて、ティナが帰ってからの後日談が読める事も面白いと思いました。以上から、私は「光村図書出

版」が良いと思います。

藤村委員

どの教科書も登場人物の会話中心で、会話が重視して使われていると思いましたが、特に「光村図書出版」は身近な場面を取り上げながら会話を重視しているという点が大きく評価できます。また、教材で取り上げられているテーマが、国際理解、平和、人権尊重等、現代的・社会的な課題が多く取り上げられていると思います。そのような点で「光村図書出版」を推薦いたします。

教育長

私も「光村図書出版」が良いと思います。

会話文が、吹き出しありも用いているところが本当に会話をしているような構成だと感じました。さらに、内容は現実的な、リアルな場面設定で、本当に中学生が話していそうな、そして話したくなるような場面が多く取り扱われています。そういったところが、生徒にとって身近で親しみやすく、興味関心も高まりやすい工夫であると感じました。

英語については全員一致で「光村図書出版」ということですので、英語は「光村図書出版」を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

では、英語は「光村図書出版」とします。

最後に、道徳になります。

道徳は、「東京書籍」・「教育出版」・「光村図書出版」・「日本文教出版」・「学研」・「あかつき教育図書」・「日本教科書」の7者から見本本が届きました。

どの者も、子どもたちがよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるための工夫があります。

選定委員会からは、「あかつき教育図書」・「光村図書出版」・「日本文教出版」の順に採択候補として推薦がありました。なお、他の4者については、甲乙つけ難く明確な順位づけはされていません。

「あかつき教育図書」の各教材の発問は、「自分を見つめて考える」「いろいろな見方で考える」の2つに精選されており、生徒が

主体的・対話的に道徳的な価値について考えを深められるよう工夫されています。また、情報化の時代において、自分はどのように考え、生きていきたいか、生徒が多面的・多角的な視点から考えることができるような教材が掲載されています。さらに、読みやすさに配慮した書体や文字の大きさになっているとともに、教材冒頭のマークは色や形状も配慮されている等、全ての生徒にとって学びやすい教科書になっています。

「光村図書出版」は、各教材名の前に、その教材に係る内容項目が示されており、生徒が各教材で学ぶ道徳的価値を意識しながら、見通しを持って学びに向かうことができるよう工夫されています。また、与えられた問いに答えるだけではなく、生徒が自ら問い合わせ、協働して解決に向かっていくことができる教材が、全学年で取り扱われています。

「日本文教出版」は、各教材名の前に、その教材に係る内容項目が示されており、生徒が各教材で学ぶ道徳的価値を意識しながら、見通しを持って学びに向かうことができるよう工夫されています。

以上が、道徳の報告です。

道徳について採択いたします。ご意見をお願いいたします。

大矢委員

道徳は、教科となってまだ新しいので、教科書自体すごくばらつきがあると思います。全ての子どもに合う教科書というのは、そもそもどの種目も難しいのですが、道徳の教科書は、まだまだこれからもっと練られていかなければいけないのではないかと思います。どの者を見てもそう思いました。この者の教科書が絶対というのはないのですけれども、私としては、その中では「光村図書出版」が良いのではないかと思います。

選定委員会からは「あかつき教育図書」が挙がっているのですけれども、「光村図書出版」と「あかつき教育図書」を比べた時に、例えば意見が対立した時について、「あかつき教育図書」では2年生で「意見の対立について話し合ってみよう」が取り扱われています。「考え方の違う者同士が歩み寄る為には、どのような考えを持つことが必要だろうか。」と。あるいは、「自分と異なる意見を持つ人に直面したとき、あなたはどのような態度で接することが大切ですか。」と。考え方や態度ではなくて、私としてはどういう方法で共通理解や共通目標を設定したら良いのかという事を考える方が大

事だと思っています。

「光村図書出版」にも同じような内容があるのですが、「光村図書出版」は、「民主主義と多数決の近くて遠い関係」という項目を挙げています。意見が対立した時に落としどころを見つける、というお互いの共通目標、利益が共有される必要があるという事を明確に打ち出しています。こういった点から、私は「光村図書出版」の方が良いかと考えます。

もちろん「あかつき教育図書」が悪いというわけではないのですが、教材も定番が多いせいか、今の実情にはややそぐわないのではないかと思います。例えば、電車の中で席を譲ってあげたらよいと思う時に、名指しで「あなたが譲りなさい」と言う場面がありますが、それはちょっと違うのではないかと思います。これ読んで子どもたちがどう考えるのか。自分事として考えられるのかだと思いますと、やはり「光村図書出版」の方は教材が多彩であるので、今の子どもたちに合うのではないかと思います。

藤村委員

私は「あかつき教育図書」を推薦したいと思います。道徳では、考え方議論するということが授業の進め方として求められていると思いますが、「あかつき教育図書」は、各教材の最後に「自分を見つめる」「考えを深める」「自分との対話」として、問いかける工夫がされている。自分の思考、考え方を見つめてどのように考えを進めていくのか、という事がわかりやすい内容になっている。それはつまり、指導の筋道も見えやすいという点で評価できると思います。また、中学生という発達段階を考慮して、スポーツ選手や著名人、生徒と同世代の主人公を取り上げた教材を通して、興味関心が持てる、考えやすいような配慮がされているという点で評価いたします。さらに、それぞれの教材において、多様性の尊重・人権尊重の観点が配慮されているという点から「あかつき教育図書」を推薦したいと思います。

榎委員

私も「あかつき教育図書」を推薦したいと思います。大変悩んだのですけれども、ポイントになったのは「あかつき教育図書」は題材名の横に内容項目が載っていないという点です。そこは子どもたちに考えてほしいところなので、題材の横には明記しないでほしいという事が私の意見です。ただ、題材によっては子どもたちにとって

リアリティが薄いものもあるという印象もあるので、悩んだのですが
けれども、「あかつき教育図書」を推薦したいと思います。

教育長

私は「あかつき教育図書」が良いと思います。

「あかつき教育図書」の教材、「光村図書出版」の教材、全てを読みました。「あかつき教育図書」の教材の方が、生徒の心を揺さぶりやすい教材が多いと私は思いました。いわゆる定番、いわゆる名作と呼ばれるような教材に加えて、本当にリアルな中学生の登場人物を扱っている教材が多く、子どもたちが自分事として捉えて置き換えながら、自分の考えをさらに深めたり、変えたりしていくのではないかと思いました。年齢や行動が身近なものであれば考え方方が押し付けになる事もありませんし、教材の捉え方や受け止め方が多様になればなるほど他の人の意見、クラスの仲間の意見や考え方を素直に、「そんな考え方もあるのか」と受け止めやすくなるのではないかと思いました。

「スキル」というのは、少し間違えれば道徳ではなく、特活分野になってしまいます。ソーシャルスキルは道徳というよりも、むしろ特活じゃないかと思います。例えば、ディスカッションをして道徳的価値や自分の考えを深めていくのか、ディスカッションをしただけで終わってしまわないか、といったところも考えていくと、私は「光村図書出版」よりも「あかつき教育図書」が良いと思っています。

道徳については、全員一致ではございませんが、「あかつき教育図書」3名、「光村図書出版」1名という事ですので、「あかつき教育図書」を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

教育長

では、道徳は「あかつき教育図書」とします。

ここまでで、何かご意見等はございますか。

では、意見が出尽くし、採択候補が出そろいましたので、私より確認いたします。

国語 株式会社三省堂

書写 光村図書出版株式会社
社会・地理的分野 株式会社帝国書院
社会・歴史的分野 日本文教出版株式会社
社会・公民的分野 教育出版株式会社
地図 株式会社帝国書院
数学 東京書籍株式会社
理科 東京書籍株式会社
音楽一般 株式会社教育芸術社
音楽器楽 株式会社教育芸術社
美術 開隆堂出版株式会社
保健体育 株式会社大修館書店
技術 東京書籍株式会社
家庭 東京書籍株式会社
英語 光村図書出版株式会社
道徳 あかつき教育図書株式会社

以上ですが、ご質問等はございますか。

それではこれで、議案第31号のうち、「摂津市立中学校における令和7年度使用教科用図書採択の件」についての審議を終了します。

それでは、今後の日程について、教育支援課より説明をお願いします。

教育支援課長

今後情報公開に關わる日程について確認をいたします。
教科用図書の採択事務に關することについては、一定期間、具体的には文部科学省が示す採択期間である8月31日まで非公開ということで進めてまいりました。

しかし、本日の採択に係る審議を公開といたしましたので、採択結果のみを速やかに公開し、議事録等については整えたうえで、9月1日以降に公開したいと考えておりますが、いかがでしょうか。

教育長

異議はございますか。

全委員

異議なし。

教育長

異議なしということですので、そのようにお願いします。

ただ今をもちまして、本日の案件はすべて終了いたしました。
これをもちまして、本日の臨時教育委員会議を終了いたします。
ご苦労様でした。